

エコアクション21 環境経営レポート

活動期間 2019年4月～2020年3月

株式会社 アイクリーン
<http://www.ai-clean.co.jp>
2020年8月27日作成

目次

(頁)

1. 会社概要	3 ~ 7
2. 対象範囲	8
3. 環境経営方針	9
4. 環境経営目標	10
5. 環境経営活動計画	11
6. 環境経営目標の実績	12
7. 環境経営計画の取組結果とその評価、 次年度の取組内容	13
8. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び 評価の結果並びに違反、訴訟等の有無	14 ~ 17
9. 代表者による全体評価と見直し・指示	18
10. 次年度の環境経営目標について	19

1. 会社概要

- 会社名 株式会社アイクリーン
- 代表者 青島 安宏
- 住所 本社・工場 静岡県富士市大野 30 番地の 2
倉庫・破砕施設 静岡県富士市大野 32 番地
- 連絡先 電話 0545-32-0070
FAX 0545-32-0075
- 資本金 1,000 万円
- 設立年月日 平成 18 年 9 月 15 日
- 環境管理責任者 業務部長 西嶋 輝将
- 事業の内容 特別管理産業廃棄物及び産業廃棄物の処分業

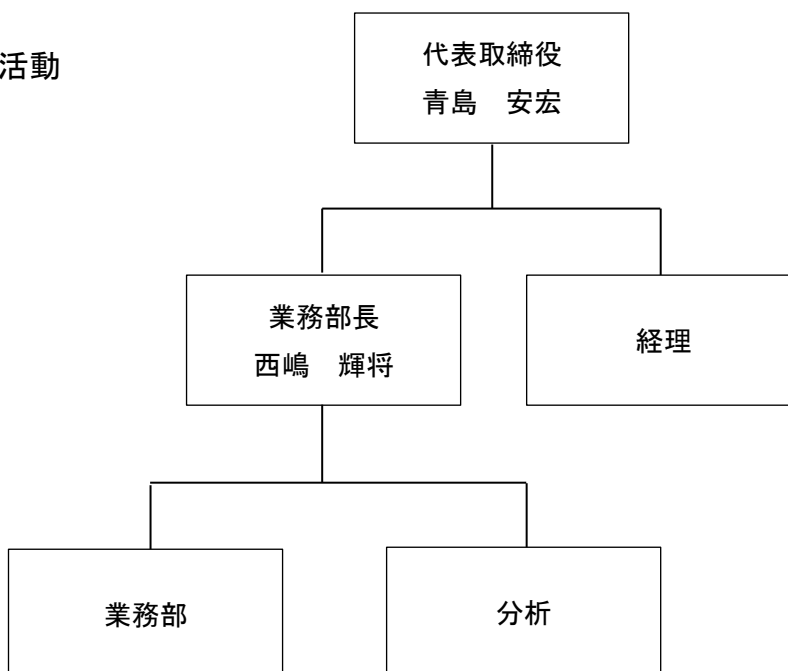
■事業規模

活動規模	単位	2014 年度	2015 年度	2016 年度	2017 年度	2018 年度	2019 年度
処分量	t	13,657	14,731	19,658	21,517.6	23,601.2	24,393.6
売上高	百万円	236.0	218.6	234.4	258.9	318.7	346.1
従業員	人	5	5	5	6	6	6
敷地面積	m ²	6252	6252	6252	6252	6252	6252

■会社組織図

※認証範囲

全組織・全活動



○産業廃棄物処分業許可

許可番号 第 02221143879 号

許可品目 汚泥、廃油、廃酸、廃アルカリ、廃プラスチック類、ガラスくず・コンクリートくず
及び陶磁器くず、金属くず

初回許可の年月日 平成 20 年 8 月 29 日

許可の有効年月日 平成 35 年 11 月 28 日

	処分方法	処分品目	処理能力
事業の範囲 (中間処分)	脱水処分	汚泥	120 m ³ /8 時間 (※1)
	油水分離処分	廃油	20 m ³ /8 時間
	中和処分	廃酸	合計 120 m ³ /8 時間 (※2)
		廃アルカリ	
	中和酸化還元凝集沈殿処分	廃酸	
		廃アルカリ	
		汚泥	
	破碎処分	廃プラスチック類	1.28t /8 時間
		ガラスくず・コンクリートくず及び陶磁器くず	2.90t/8 時間
金属くず		4.04t/8 時間	

○特別管理産業廃棄物処分業許可

許可番号 第 02271143879 号

許可品目 腐食性廃酸、腐食性廃アルカリ、特定有害汚泥、特定有害廃酸、特定有害廃アルカリ

初回許可の年月日 平成 20 年 8 月 29 日

許可の有効年月日 平成 35 年 11 月 28 日

	処分方法	処分品目	処理能力
事業の範囲 (中間処分)	中和処分	腐食性廃酸	合計 120 m ³ /8 時間 (※3)
		腐食性廃アルカリ	
	中和酸化還元凝集沈殿処分 (※4)	特定有害汚泥	
		特定有害廃酸	
		特定有害廃アルカリ	

許可処理数量は※1、※2、※3 を合計して 120 m³/8 時間

※4 有害物の許可品目は合計 7 品目で下記の通り

水銀又はその化合物、カドミウム又はその化合物、鉛又はその化合物、

六価クロム化合物、砒素又はその化合物、シアン化合物、セレン又はその化合物

■産業廃棄物処理施設

○中和施設、中和・還元・凝集沈殿施設

設置の場所 静岡県富士市大野字大野北 30 番 1
 設置許可番号 第 030111167 号
 設置許可年月日 平成 19 年 8 月 28 日
 設置年月日 平成 20 年 8 月 29 日

施設の種類	処分品目	処理能力
中和施設	廃酸	合計 120 m ³ /8 時間
	廃アルカリ	
中和・還元・凝集沈殿施設	廃酸	
	廃アルカリ	
	汚泥	

○脱水施設

設置の場所 静岡県富士市大野字大野北 30 番 1
 設置許可番号 第 030110143 号
 設置許可年月日 平成 19 年 8 月 28 日
 設置年月日 平成 20 年 8 月 29 日

施設の種類	処分品目	処理能力
脱水施設	汚泥	60 m ³ /8 時間

○脱水施設

設置の場所 静岡県富士市大野字大野北 30 番 1
 設置許可番号 第 030110227 号
 設置許可年月日 平成 28 年 2 月 2 日
 設置年月日 平成 29 年 3 月 27 日

施設の種類	処分品目	処理能力
脱水施設	汚泥	60 m ³ /8 時間

○油水分離施設

設置の場所 静岡県富士市大野字大野北 30 番 1
 設置許可番号 第 030110142 号
 設置許可年月日 平成 19 年 8 月 28 日
 設置年月日 平成 20 年 8 月 29 日

施設の種類	処分品目	処理能力
油水分離施設	廃油	20 m ³ /8 時間

○破碎施設

設置の場所 静岡県富士市大野字大野北 32 番
 設置許可番号 —
 設置許可年月日 —
 設置年月日 平成 31 年 4 月 5 日

施設の種類	処分品目	処理能力
破碎施設	廃プラスチック類	1.28t/8 時間
	ガラス・コンクリートくず及び陶磁器くず	2.90t/8 時間
	金属くず	4.04t/8 時間

■特別管理産業廃棄物処理施設

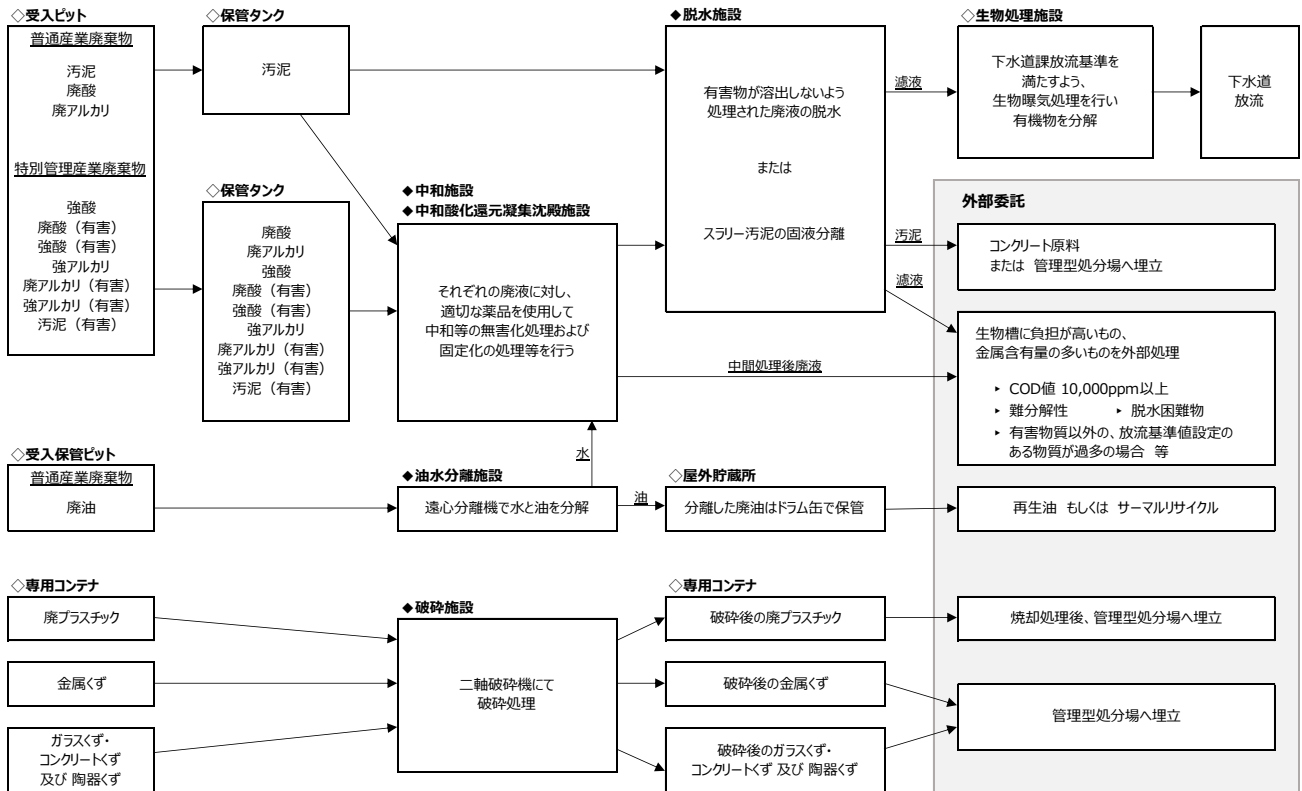
○中和施設、中和酸化還元凝集沈殿施設

設置の場所 静岡県富士市大野字大野北 30 番 1
 設置許可番号 第 030111167 号
 設置許可年月日 平成 21 年 7 月 21 日
 設置年月日 平成 20 年 8 月 29 日

施設の種類	処分品目	処理能力
中和施設	腐食性廃酸	合計 120 m ³ /8 時間
	腐食性廃アルカリ	
中和酸化還元凝集沈殿施設	特定有害廃酸	
	特定有害廃アルカリ	
	特定有害汚泥	

■ 処理工程図

(株)アイクリーン 廃棄物処理フロー図



廃棄物のサンプルを分析、見積、契約

- ① 計量後、廃棄物の品目別に受入ピットにて確認し、荷卸しして移送
- ② 廃棄物の品目別に廃棄物貯槽にて保管
- ③ 中和凝集槽にて薬注処理、簡易テストを行う
- ④ 処理後の廃棄物を汚泥槽に移送
※一部処理後廃液を外部委託
- ⑤ 脱水処理
➢ 汚泥は外部搬出（リサイクル及び埋立処分）
- ⑥ 脱水ろ液は生物処理の工程へ移送
※一部処理後廃液を外部委託
- ⑦ 生物処理工程を経て公共下水道へ放流

■ 処理実績

		単位	2015 年度	2016 年度	2017 年度	2018 年度	2019 年度
処理量 受託した産業廃棄物の	収集運搬量	t	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	中間処理量	t	14,731.2	19,658.2	21,517.6	23,601.2	24,393.6
	うち再資源化等量	t	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	最終処分量	t	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	中間処理後の産廃の処分量	t	1,576.7	1,759.3	1,756.2	2,141.1	1,780.1
	うち再資源化等量	t	83.1	83.3	191.4	419.1	675.4

- 処理料金 別途個別見積によりますので、お気軽に当社までご連絡下さい。
処分費用及び収集運搬費の見積は全て無料です。

2. 対象範囲

1. 対象組織は株式会社アイクリーンとし、代表者、社員（アルバイト等含む）とする。
2. 対象活動は主に液体の特別管理産業廃棄物及び産業廃棄物の処分業とし、各部門の対象活動範囲は具体的に下記の通りとする。
 - ・ 処理部門
敷地内で行われる廃棄物の受入、保管、移送、薬注処理、脱水処理、生物処理及び下水道放流、特殊車両の使用、廃棄物の外部搬出とする。容器処分を含む。
 - ・ 分析部門
廃棄物分析業務、廃棄物の処理試験、分析機器、使用薬品の管理業務とする。
 - ・ 事務部門
経理業務、購買業務、廃棄物の管理業務、社用車の使用とする。
3. 対象範囲は会社敷地内及び場外に排出される放流水、中間処理後の産業廃棄物とする。

3. 環境経営方針

環境方針

私たちは、**水**をきれいにします。

『有りと有らゆる知恵を絞って』

- 1、処理工程で出る汚泥の埋立率を削減し、リサイクル率の向上に取り組みます。
- 1、社内における電気使用量の削減に取り組み、二酸化炭素排出量の削減に努めます。
- 1、社内に於ける上水道使用の削減に取り組みます。
- 1、常に水処理技術の向上と共に薬品使用量の削減を目指し、お客様に安全・安心な情報提供に努めます。
- 1、地球環境の保全・修復を目的とする活動に積極的に参加します。
- 1、社内においてペーパーレス化等について検討し、廃棄物の削減を実施します。
- 1、限りある資源を有効利用する為に、グリーン購入を推進し、物質の循環型社会の構築に貢献します。
- 1、各関連法規及び、その他の要求事項を遵守します。

上記の実現可能な範囲内において、達成すべき目的・目標を掲げ、実行するとともに、見直しを行い継続的改善・改良に努めます。
この環境方針を維持・実行する為に、全社員に周知するとともに、ホームページを通じ社外にもお約束致します。

平成 25 年 4 月 1 日 制定

株式会社 アイクリーン

代表取締役

青島安宏

4. 環境経営目標

■4.1 環境経営目標

項目	基準期間（実績値） （2018年度）	目標	目標値 （2019年度）	主管部門
二酸化炭素の排出量削減 （電気使用量の削減）	電気使用量 614,109kwh 二酸化炭素排出係数（東京電力） 0.462kg-CO ₂ /kwh 二酸化炭素排出量 283,718.4kg 処分量 23,601.2t 排出割合 12.02kg/t	廃棄物の処分量当たりの 二酸化炭素 排出量 前年以下	排出割合 12.02kg/t 以下	処理部門
				分析部門
				事務部門
廃棄物排出量の削減 （汚泥のリサイクル率アップ）	汚泥のリサイクル率 実績値 18.6%	前年の リサイクル率 以上	リサイクル率 18.6%以上	処理部門
廃棄物排出量の削減 （コピー用紙の再利用）	コピー用紙の使用 27,000枚（108kg） 回収 81kg 実績回収率 75.0%	回収率 75%以上を 維持	回収率 75.0%以上	事務部門
化学物質の適正使用 （化学物質使用の効率化）	化学物質使用量 /中間処理量 目標値 16.04 kg/t 以下	前年度より 効率化を図る	処理コスト比 16.04 kg/t 以下	処理部門
上水の使用量削減	上水使用量 実績値 708.1 m ³	上水使用量を 1%削減	上水使用量 701.0 m ³ 以下	処理部門
				分析部門
				事務部門
グリーン購入の推進	グリーン購入 実績値 76%	購入比率を 前年目標値 1%アップ	グリーン購入適合品比率 77%以上	事務部門

※総排水量に関しては廃棄物の搬入量と搬入物の処理難易度によって地下水使用量、薬剤使用量が変化し、下水道放流量が大幅に変動するため把握が困難なので目標としては設定しないが、代替として上水使用量の削減を目標とする。

■4.2 環境経営目標（年次、長期目標）

項目	基準年 （2018年度）	今年度目標 （2019年度）	長期目標 （2023年度まで）	主管部門
二酸化炭素の排出量削減 （電気使用量の削減）	廃棄物処分量 1t 当たりの 二酸化炭素排出量 12.02kg/t	12.02kg/t 以下	目標設定の見直し 処分量 1t 当たりの 二酸化炭素排出量 12.00kg/t 以下	処理部門
				分析部門
				事務部門
廃棄物排出量の削減 （汚泥のリサイクル率アップ）	汚泥の総排出量 2,115t 内リサイクル量 393t リサイクル率 18.6%	リサイクル率 前年度以上	リサイクル率 30.0%以上	処理部門
廃棄物排出量の削減 （コピー用紙の再利用）	コピー用紙の購入枚数 27,000枚（108kg） 回収 75.0%	回収率 75.0%以上を維持	回収率 75.0%以上を確保	事務部門
化学物質の適正使用 （化学物質使用の効率化）	化学物質使用量 /中間処理量 16.04 kg/t	処理効率 16.04%以下	処理効率 15.0%	処理部門
上水の使用量削減	上水使用量 708.1 m ³	上水使用量 701.0 m ³ 以下	上水使用量 700 m ³ 以下	処理部門
				分析部門
				事務部門
グリーン購入の推進	グリーン購入割合 76%	購入割合 77%以上	購入割合 80%以上	事務部門

5. 環境経営計画

■環境経営計画

項目	環境活動	取組内容	主管部門	
二酸化炭素の排出量削減	ブローポンプ（消費電力 69kw）のインバーター制御の最適化	工場内でもっとも消費電力の大きいブローポンプのインバーターの生物槽の流量、負荷による制御のこまめな調整を行い、消費電力を削減する。	処理部門	
	使用していない機器の電源 OFF	こまめに電源を OFF にし、待機電力を削減する。 終業時の点検等を確実にし、電源の切り忘れを防止する。	分析部門	
	ICP（消費電力 8kw）稼働時間の効率化	ICP での測定を一度にまとめて行うなど、測定の短縮を図ることにより消費電力が大きい ICP の使用電気の削減をする。 サンプル数による ICP の稼働時間の効率を考慮し稼働。		
	昼休みの照明 OFF	照明スイッチ付近に昼休みの電源 OFF の表示を行い、昼食後に消灯するように努める。	事務部門	
	エアコン消費電力削減	リモコン付近に啓発掲示を行い、夏季（7月～9月）は設定温度 26℃、冬季（12月～2月）は設定温度 22℃とする。		
廃棄物の排出量削減	汚泥のリサイクル率アップ	脱水機ろ布の洗浄をこまめに行い、含水率を下げる。 取引業者の新規契約を進め、リサイクル向け排出量の拡大に努める。	処理部門	
	コピー用紙の再利用	購入、使用した枚数を把握し、リサイクル率の把握を行う。 今まで紙媒体で配布及び保管していた書類を PDF 化し、紙保管を行う書類を極力減らしていく	事務部門	
		FAX を複合機内に保管し、プリントアウトするものを選択、必要ないものはそのままデータ保管、もしくは破棄できるようにする		
化学物質の適正使用	化学物質使用の効率化	処理方法の効率化を上げるため、廃液同士の混合処理等の工夫を行う。 営業、事務と連携し、廃棄物全体のバランスを考慮して契約、搬入を進めていく。 新たな薬品、安価なリサイクル品等の検討を進め、処理にかかるコストの削減をする。	処理部門	
		工場内の節水運動	使用頻度が高い水栓に節水を求める掲示をし、啓発運動を行う。 機器、容器の洗浄などの節水に努める。	処理部門
			分析室内の節水運動	節水コマを導入し、上水使用量を削減する。 蒸留装置、冷却装置の冷却水をため、ガラス器具の洗浄水等に使用する
上水の使用量削減	水道配管の漏洩点検	月に 1 回未使用時に水道メーターが回っていないかチェックする。	事務部門	
	グリーン購入	グリーン購入の推進 事務用品の新規に購入するものに関してはカタログ等のグリーン商品リスト掲載品から積極的にリストアップする	事務部門	

6. 環境経営目標の実績

■環境経営活動実績と結果

項目	基準期間 (2018年度)	目標値 (2019年度)	実績 (2019年度)	評価
二酸化炭素の 排出量削減 (電気使用量の削減)	電気使用量 614,109kwh 二酸化炭素排出係数(東京電力) 0.462kg-CO ₂ /kwh 二酸化炭素排出量 実績値 283,718.4kg 排出割合 12.02kg/t	前年度以下 12.02kg/t 以下	電気使用量 603,368kwh 二酸化炭素排出量 278,756.02kgCO ₂ 処分量 24,393.6t 排出割合 11.43kg/t	○
廃棄物排出量の削減 (汚泥のリサイクル率アップ)	汚泥の総排出量 2,115t 内リサイクル量 393t リサイクル率 18.6%	リサイクル率 前年度以上を維持	汚泥の総排出量 1734.6t 内リサイクル量 629.9t リサイクル率 36.3%	○
廃棄物排出量の削減 (コピー用紙の再利用)	コピー用紙の使用枚数 27,000枚(108kg) 回収 81kg 実績回収率 75.0%	回収率 75.0%以上を維持	コピー用紙の使用 25,000枚(100kg) 回収 77kg 回収率 77%	○
化学物質の適正使用 (化学物質使用の効率化)	化学物質使用量 /中間処理量 16.04 kg/t	前年度より削減	化学物質使用量 /中間処理量 18.62 kg/t	△
上水の使用量削減	上水使用量 708.1 m ³	上水使用量 前年実績から 1%削減 701.0 m ³ 以下	上水使用量 719.0 m ³	△
グリーン購入の推進	グリーン購入割合 76%	購入割合 77%以上	購入割合 80%	○

※活動の結果は目標達成○、業務上のやむを得ない理由等で未達成△、目標未達成×で表す。

※二酸化炭素排出量の算出には東京電力の排出係数(2017年度)の0.462を使用しました。

■評価

化学物質の 適正使用	原因	既存廃棄物のより確実な処理の実現のため定期入荷物の処分方法の見直しを図り化学物質使用量が増えたのが主な原因と思われます
	是正	今指標は2019年度からのため、次年度以降推移を確認し対応
上水の使用量 削減	原因	使用量の削減に努めたが搬入量の増加による洗浄水などの使用量が増えたため
	是正	搬入量の増加等のやむを得ない原因が一番であるが、より一層従業員の啓発に力を入れ掲示物の充実等を図っていく

■次年度の環境経営項目…変更なし

7. 環境経営計画の取組結果とその評価、 次年度の取組内容

項目	環境活動	主管部門	取組結果	評価	次年度の取組内容
二酸化炭素の排出量削減	フロアポンプ（消費電力69kw）のインバーター制御の最適化	処理部門	日常業務の中で最適なエア量供給が実施出来るようこまめに出力調整を行い電気使用量削減も達成出来た。	○	電気使用量自体が削減出来ているので引き続きこまめに出力調整を行なう。
	場内照明のLED化	処理部門	2019年度は事務所及び工場内の蛍光灯、水銀灯を全てLED化した切り忘れ防止の掲示等は行ない適切な照明確保に努めた。	○	今後も交換必要な箇所はLED照明を採用していく
	使用していない機器の電源OFF	分析部門	掲示物による啓発掲示を行い、活動した。	○	活動継続
			電源の切り忘れ防止のため終業時確認。	○	活動継続
			ホットプレート、乾燥機等は一度にまとめて使用するよう心掛けた。	○	活動継続
	ICP（消費電力8kw）稼働時間の効率化	分析部門	急を要するもの以外の分析は曜日を決めて一度にまとめて測定を行った。	○	活動継続
	照明のOFF	分析部門	サンプルを考慮し効率よくICPの稼働を行う。パックテストの拡充実施。	○	活動継続
	照明のOFF	分析部門	分析室内が無になる時は照明を切った。	○	活動継続
昼休みの照明OFF	事務部門	啓発掲示を行い、昼食後の照明をOFFにした。	○	活動継続	
エアコン消費電力削減		啓発掲示を行い、設定温度が徹底されていた。	○	活動継続	
廃棄物の排出量削減	汚泥のリサイクル率アップ	処理部門	脱水機のろ布の洗浄を維持管理の規定以上に行い、含水率の低下と作業効率向上に努めた。	○	活動継続
			中間処理量が増加したが処分後の汚泥は減少した。リサイクル先への搬出が順調に進みリサイクル率のアップに貢献した。	○	活動継続
	コピー用紙の再利用	事務部門	購入、使用したコピー用紙の記録を集計した。	○	活動継続
			リサイクル専用BOXを設置し、回収量の記録をした。	○	活動継続
ペーパーレス化の推進	事務部門	裏紙専用BOXを設置し、積極的に活用した。	○	活動継続	
		紙媒体からデータでの保管に積極的に切り替え、周知した。	○	活動継続	
化学物質の適正使用	化学物質の使用の効率化（処理コスト比の向上）	処理部門	廃液の混合処理及び新規契約物件に関してはもっとも効率的な処分方法の検討を行なって効率化に努めた。	○	分析との連携を取って効率化を継続する
			営業、事務と連携して現状把握と今後の対策について会議を行った。	○	契約物件の精査と会議を通じて情報の共有化を継続していく
			薬品の購入先の再選定等を行い、価格購入ロット等の最適化に努めた。	○	薬品購入先の選定は常に情報集収集しながら最適化を図る
上水の使用量削減	工場内の節水運動	処理部門	上水の水栓に啓発掲示を行った。	○	掲示を継続
			機器、容器の洗浄の際に手早く作業を進めた。	○	活動継続
	分析室内の節水運動	分析部門	節水コマを導入し、使用量を削減した。	○	活動継続
			溜め水をガラス器具の洗浄に利用した。	○	活動継続
水道配管の漏洩点検	事務部門	月に1度、未使用時の水道メーターのチェックを行い、漏洩有無の点検を行った。	○	活動継続	
グリーン購入の推進	グリーン購入比率の増加	事務部門	カタログ等でのグリーン商品を積極的に選択し、グリーン購入比率を高める。	○	必要性を熟考した上で購入時にはグリーン購入を優先していく。

8. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果 並びに違反、訴訟等の有無

調査期間中の、環境関連法規の違反はありません。

また、近隣企業、住民等からのクレーム、訴訟はありませんでした。 調査日 2020年7月1日

関連法規の名称	チェック項目	調査結果	判定
廃棄物の処理及び清掃に関する法律	① 産業廃棄物処分業の許可有効期限	許可有効期限は平成35年11月28日まで	○
	② 特別管理産業廃棄物処分業の許可有効期限		○
	③ 産業廃棄物処理施設の変更の有無（許可、届出の必要）	脱水機の改修に伴う軽微変更届を実施	○
	④ 許可に必要な資格	中間処理施設技術管理者 公害防止管理者水質一種 等の資格を取得済	○
	⑤ 産業廃棄物の保管に係る事項	保管掲示板を確認、保管容量は法律の上限を超える数量（許可処理数量の14倍）のタンク設置なし	○
	⑥ 産業廃棄物管理票（C票）、契約書の保管状況及び帳簿の管理状況	産業廃棄物管理票に関しては全て保管、契約書は事務所内に顧客ごとにファイルして保管 帳簿はPC内に全て保管、管理	○
	⑦ 施設の維持管理記録の内容	法に規定されている維持管理は月に一回実施、その他設備の点検も日常点検で実施	○
	⑧ 法改正に伴う変更の有無	水銀等の廃棄物に関する委託契約書への記載を実施	○
	⑨ 排出する汚泥に関して特別管理産業廃棄物の判定基準以下であることの確認	排出される汚泥は年に一度試験成績書を取得し関係各所に提出、2019年度の結果は問題なし ※基準値、試験の結果は下表参照	○
	⑩ 産業廃棄物処理実績報告書及び産業廃棄物処分状況報告書の提出状況	2019年度分は全て6月末日までに提出	○
	⑪ マニフェストの法律で定められた期間内の返却	弊社処分のマニフェストはPC内で管理され、紐付けされた段階で入力し、期間外ではエラー通知がなされるようになっており、2019年度は問題がなかった	○
	⑫ 水銀を含む特別管理産業廃棄物	現在社内の規定として水銀含有の場合受入不可としている。委託契約書への通知義務についての記載実施	○
（排出事業者として）	⑬ 弊社から排出される産業廃棄物等の保管場所掲示板	各廃棄物置き場に掲示	○
	⑭ 産業廃棄物管理票交付等状況報告書	2019年度分は全て6月末日までに提出	○
	⑮ 搬出先との契約書締結	搬出先の追加に伴う契約の締結を行った	○
	⑯ マニフェストの発行、保管	弊社保管のA、B2、D、E票は年度毎にめられ、過去5年度分を全て保管	○
	⑰ マニフェストの法律で定められている期間内の返却の確認及び期限外の報告	弊社排出の廃棄物に関してマニフェストの返却期限が超過したものはなかった	○

関連法規の名称	チェック項目	調査結果	判定
静岡県産業廃棄物の適正な処理に関する条例	① 産業廃棄物管理責任者の選定	業務部長を管理責任者として選任	○
	② 廃棄物処分委託先の現地確認（必要項目の見直し等含む）	静岡県が発行している外部調査票の見本に従って作成、必要な変更を行って運用している	○
	③ 現地確認の有効期限	搬出先の現地確認の有効期限のリストを作成し、チェック	○
	④ 現地確認記録の保管状況	産業廃棄物委託先チェック表としてファイルして保管	○
	⑤ 事前手続きが必要な変更	特になし	○
下水道法	① 富士市下水道の排水基準の遵守	社内分析により測定 測定値結果の問題なし	○
	② 下水道部への年次報告	2019年度は提出済、試験成績書の数値に問題なし ※基準値、試験の結果は下表参照	○
	③ 下水道法の特定施設の届出	変更なし	○
水質汚濁防止法	① 有害物質使用特定施設及び有害物質貯蔵指定施設の届出	変更なし	○
	② 施設の変更の有無及び変更届	上記の分を届出済み	○
土壌汚染対策法	① 溶出基準の規制値	本年度より年2回の分析実施（土壌基準分析：溶出）結果は特に問題なし。持込先からの異常報告等もなし。	○
	② 排出先ごとの自主基準に係る規制値	上記の基準＋含有基準があるが、分析機関での分析も実施しデータ開示。排出先からの異常報告もなし	○
騒音規制法	① 特定施設の届出の変更	特に変更はありませんでした	○
振動規制法	① 特定施設の届出の変更	特に変更はありませんでした	○
悪臭防止法	① 周囲への悪臭の漏洩	生物槽特有の臭気はあるが、外部に漏洩して悪臭被害が及ぶほどではなかった 加えて排ガス処理装置への接続配管の設置 ※基準値15（敷地境界線）	○
	② 悪臭に関する苦情の有無	一年間苦情なし	○
消防法	① 屋外貯蔵所の届出	特に変更なし	○
	② 消火器の設置状況（有効期限）	設置状況は良好、有効期限も問題なし 受入施設、処理施設、屋外貯蔵所に設置 定期検査も外部業者に委託し実施	○
	③ 指定数量の遵守	指定数量以上のドラム缶廃油の受入なし	○
	④ 小型ボイラーに関わる事項（設置、ばい煙、少量危険物）	提出済の届出に変更なし	○
	⑤ 変電設備設置届出書	提出済	
その他の要求事項	① 自治会との協定に基づく報告事項等	特になし	○
フロン排出抑制法	① 点検・保守管理・引き渡し	簡易点検・定期点検・充填・回収・再生 破棄基準の遵守	○
高周波利用設備	① 高周波利用設備許可申請	ICPの入れ替えに伴う許可申請を東海総合通信局へ提出、許可	○

■廃棄物の処理及び清掃に関する法律における

特別管理産業廃棄物汚泥に該当する溶出の基準値及び試験の結果 ※2020年5月21日採取

試験の対象	基準値 (mg/L)	試験の結果 (mg/L)
水素イオン濃度 (pH)	—	
カドミウム及びその化合物	0.09 以下	0.005 未満
鉛及びその化合物	0.3 以下	0.05 未満
六価クロム化合物	1.5 以下	0.05 未満
水銀及びアルキル水銀その他の水銀化合物	0.0005 以下	0.0005 未満
シアン化合物	1 以下	0.1 未満
ヒ素及びその化合物	0.3 以下	0.02 未満
セレン及びその化合物	0.3 以下	0.01
含水率	85%以下	56.3%
全油分	5%未満	4.76%

■下水道法における放流基準値及び試験の結果 ※2020年3月26日採取

試験の対象	基準値 (mg/L)	試験の結果 (mg/L)	試験の対象	基準値 (mg/L)	試験の結果 (mg/L)
水銀及びその化合物	0.005 以下	0.0005 未満	温度	規制なし (指標 45℃以下)	23℃
アルキル水銀	検出されないこと	—	pH	5.7~8.7	7.3
カドミウム及びその化合物	0.1 以下	0.003 未満	COD	規制なし	—
六価クロム化合物	0.5 以下	0.05 未満	BOD	600 未満	65.9
鉛及びその化合物	0.1 以下	0.01 未満	ノルマルヘキサン抽出物質	鉱物油 5 以下 植物油 30 以下	1 未満 1 未満
ヒ素及びその化合物	0.1 以下	0.01 未満	フェノール類	5 以下	0.1 未満
セレン及びその化合物	0.1 以下	0.01 未満	SS	600 未満	61
クロム及びその化合物	2 以下	0.1 未満	ヨウ素消費量	220 未満	6
シアン化合物	1 以下	0.1 未満	アンモニア性窒素	合計 380 未満	14.3
有機リン化合物	1 以下	0.1 未満	硝酸性窒素		0.19
銅及びその化合物	3 以下	0.05 未満	亜硝酸性窒素		0.20
亜鉛及びその化合物	2 以下	0.05			
鉄及びその化合物	10 以下	0.1 未満			
マンガン及びその化合物	10 以下	0.1 未満			
ホウ素及びその化合物	10 以下	2			
フッ素及びその化合物	8 以下	0.2 未満			

調査結果の総括と来年度以降の注意事項

- ・ 年度内に予定し、2020年2月に行ったB脱水機のパーツ交換等に伴う産業廃棄物処理施設軽微変更届出等を遅滞無く提出しました。
- ・ 2020年6月のICP入れ替えによる高周波利用設備の変更許可申請を行いました。
- ・ 計量器の2年ごと法定点検を10月に確実に実施すること。
- ・ その他変更事項があった場合は関連法規をチェックし、許可、届出が必要になった場合は遅滞なく提出すること。

9. 代表者による全体の評価と見直し・指示

■全体評価と見直し

<p>二酸化炭素排出量の削減</p>	<p>構内のLED化も全て完了させ数値としてもその効果が確認出来る結果となり取組活動の有効性が認められたと評価している。環境を仕事としている企業であることを全従業員が意識をし、毎日取組をしていく節電対策について環境管理責任者を中心に継続していく。構内各所へ期間を定め掲示物強化を進める。</p>
<p>汚泥のリサイクル</p>	<p>搬入、処理、搬出と一連の業務の中で、どのようにすれば今まで埋立向けに搬出していた汚泥を有効利用することが出来るのかを検証、検討して取引先の要望に対応が出来るよう取組を続けてきた。30%を超えるリサイクル率を維持出来たことは大きな成果だと考えている。リサイクル率の向上が新たな取引先を開拓する上で大きなチャンスとなることから、来期も有効利用率30%は維持が出来るよう全社一丸となり取組を継続する。新たな有効利用先の開拓も進めていく。</p>
<p>紙の回収</p>	<p>社内での書類削減を進め、紙を使用せずメールや共有サーバー内で仕事をする事で全体の使用量を削減することが出来たと判断している。今後はユーザーに対し、どのようにすれば弊社のペーパーレス化への取組を伝えることが出来るのかを検討していく。</p>
<p>化学物質使用量の削減</p>	<p>昨年度までの計測の仕方から変更して初回の取りまとめとなるので、来年度以降も確実な数量把握に努め、常に新たな水処理技術の導入も検討をする中で正確な廃棄物の性状分析を行い、処理に必要となる最適な薬品添加量を確実に掴みながら日々の業務を継続していく。各種の化学物質の取り扱いについて、適正で安全な使用・管理が出来るよう従業員の教育訓練を継続していく。また、この薬品使用量の削減がコスト低下に繋がり競争力を維持していくために重要なことであることを全従業員で理解を深めていく。</p>
<p>上水使用量の削減</p>	<p>受入れ量の増加に伴い、なるべく井水を使用して車輛の洗浄等が出来るように対策を行ったが、その対策だけでは目標達成は難しく節水に関する掲示等を強化し意識向上に対する取組を継続していく。</p>
<p>グリーン購入の推進</p>	<p>エコアクション取組当初より物品購入の際には意識した購入をするよう取り組んできた結果、毎年継続的に目標値はクリア出来ているので今後も取組は継続していく。グリーン購入へ切替られるものが無いか常に意識を持って取り組む。</p>
<p>2019年度の総括</p>	<p>エコアクションの認証時である2012年度の売上高181百万円、2019年度346百万円となり、エコアクションの取組開始よりほぼ2倍の売上となり継続的な環境活動が経営改善にも寄与しているものと考えている。特に廃棄物処理業者としての優良認定取得後は県外からの搬入も増加し、取り扱い量も年々増えている中で環境法令その他の法規関係の自己チェック等を重ね、各種の指導事やクレーム等も無く事業運営が出来ており、今後も上記の取り組み活動を維持、継続しレベルアップをするための教育訓練も継続して実施していく。構内の美化・清掃活動について常に清潔に保たれた工場はお客様に安心感を与え、従業員にとっても健康で安心して働ける環境になると考えており、今後も力を入れて取り組む。2020年度からは自社の清掃活動だけでなく、地元自治会の清掃活動等へも積極的に参加させて頂き、地元自治会等とのコミュニケーション活動にも力を入れて取り組む。地元住民に認められ、お客様から必要とされる企業でなければ今後の事業の継続、発展は無い。エコアクションの活動を通じて改善活動を継続して進めていく。</p>

2020年 7月 1日
株式会社 アイクリーン
代表取締役 青島 安宏

10. 次年度環境経営目標及び環境経営計画について

項目	目標と計画設定について
二酸化炭素の排出量削減 (電気使用量の削減)	数値目標の算出を廃棄物の処分量あたりの二酸化炭素排出量をカウントし始めて2年目となり、目標数値の明確化が出来ている。今後も廃棄物の動向にもよるが2020年度についても前年度を基準年として取り組みを継続していく。11.43 kg/t以下を数値目標として活動する。
廃棄物排出量の削減 (汚泥のリサイクル率アップ)	今年度は前年よりリサイクル率の大幅アップを達成した。廃棄物の性状にもよるが、今後もより一層リサイクルへの資源循環を促進していくため、環境経営目標は前年度以上を維持する。
廃棄物排出量の削減 (コピー用紙の再利用)	廃棄物の取扱量が年々増加していくことで紙自体の使用量が増加し目標達成についての懸念もあったが事務所内では紙のリサイクルに関して習慣化しており長期目標もすでに達成しているので現在の75%以上を毎年維持することを目標とする。
化学物質の適正使用 (化学物質使用の効率化)	前年度までは薬品の購入価格に左右されるコストを指標とした目標を導入していたが、購入薬品の単価が毎年上がっている中、化学物質の適正利用との観点から主に使用する薬品に関して廃棄物量に対しての使用量を把握していく方式に変更した。(基準年の2018年度に関しては再計算しレポートに記載) 2019年度は既存廃棄物を適正な処分を達成するため薬剤使用の増加を伴う大幅な処分方法変更を行ったので2018年度から効率が落ちた。今後も既存廃棄物の処理方法見直し、新規廃棄物の新たな処分方法など常に効率の良い化学物質の使用法を模索し対処し2020年度は前年度よりさらなる効率化を目指す。
上水の使用量削減	受入量の増加や搬入車両の増加及び構内清掃作業の徹底により増加傾向にある中、上水→井水への切り替えに力を入れていたが目標達成とはならず、啓発掲示を含め再度従業員に対し活動に関する重要性を教育し長期目標を達成するため次年度の目標は前年以下とする。
グリーン購入の推進	主に事務所内で使用する物品の購入について周知、教育を徹底する。今期はすでに長期目標(2023年度に80%)を達成しているため、今後は80%以上の実績を維持するよう目標とする。